



皆さんは、障がい者等用駐車場に障がいのない人が駐車しているのを見かけたことはありませんか？
また、点字ブロックの上に自転車などが置かれている光景を目にしたことはありませんか？
私は、ああいうの大嫌いなんです。とてもイヤな気持ちになってしまいます。

話は変わりますが、平成27年度のデータによると、日本では約27万人の方が心身の障がいのため、施設等で自立を目指して働き、また、知識や能力向上のために必要な訓練を受けています。そして、自立を目指して働きたい方は年々増えているのですが…、私たちにできることはないのでしょうか。

今回の授業で皆さんに知ってもらいたいことは、障がいを持つ方が作った商品を購入することで、自立を支援する社会につながる、ということです。

『障がい者が作った商品』とは、障がいを持つ方が“自分なりの働き方で社会に貢献しながら自立する”ことを目的として作られた商品のことをいいます。

徳島県内では、藍染め製品(ハンカチ・ストールなど)や地元で採れた和三盆を使ったお菓子、柿酢で作ったドレッシングなど、障がいを持つ方の手によって作られているものがあります。これらを購入することは、伝統工芸の保全や地産地消の推進だけでなく、自立を目指して働き続ける意欲やそれをサポートする方の力となり、自立を支援する社会へとつながっていくのです。

買い物をする際、その商品が社会にどう影響するのかを気にして選んでみましょう。そして、時には、自立を目指して働く方やそれを応援する人・社会へ、**ちょっぴり幸せを贈って**みませんか？

来月の授業は、「地産地消」です。地元で採れたものを地元で消費することで地域にどう影響するのかを掲載しますので、ぜひご覧ください。

板野町は、エシカル消費を推進しています。

お問い合わせ 役場産業課 ☎672-5994

【ひとくちメモ】

※ 徳島県では、NPO法人とくしま障がい者授産支援協議会が商品の販売促進を図るため、「awanowa」というブランドを立ち上げていて、板野町の「いたの共同作業所あせび」も、その一員になっています。

板野町の取り組み

いたの共同作業所あせび ☎672-4721

板野町には、いたの共同作業所あせびが地域との交流の場として運営している「おかしの家あせび」があり、障がいを持つ方が焼き菓子を作ったり、駄菓子の販売をしています。新商品のにんじんパウンドケーキは、板野町のこだわり農家のにんじんとたくさんのドライフルーツを使った“キラキラしたパウンドケーキ”です。



『エシカル消費』とは、人・社会・地域・環境などに配慮した商品を選択することです。

ある日の先生

いたの共同作業所あせびは毎年12月に焼き芋屋をしていて、いつもおいしく食べてるんです。
あ、あれ…？ ガスが…

